

平成30年度『市町村・インフラ系企業防災関連担当者研修会～3.11からの学び塾～』を開催しました(2018/12/19-20)

テーマ：市町村職員、人材育成、研修、国土交通省東北地方整備局、危機管理、都市整備
 場所：災害科学国際研究所 1階多目的ホール、1階会議・セミナー室、2階演習室A（仙台市青葉区）

2018年12月19日（水）～20日（木）、東北大学災害科学国際研究所と国土交通省東北地方整備局の共同主催、宮城県と仙台市の後援により、災害科学国際研究所にて平成30年度「市町村・インフラ系企業防災関連担当者研修会～3.11からの学び塾～」を開催しました。

本研修は、東日本大震災発生当時の緊急対応の最前線における実体験を中心に、震災対応の教訓を改めて学び直すとともに、市町村の災害危機管理、インフラ系企業などに必要な活動遂行能力の向上を図ることを目的に、一昨年度、昨年度に引き続き3回目の開催となりました。

宮城県内を中心とした東北管内の市町村・インフラ系企業防災関連担当者が、19日に35名（危機管理コース：22名、都市整備コース：13名）、20日に31名（危機管理コース：18名、都市整備局：13名）が参加しました。今年度は特に東北大学名誉教授の首藤伸夫先生による特別講義「水災害対策の変遷」が行われました。最終日には受講者を代表して、各コース一人ずつに丸谷所長補佐から受講修了証が手渡され閉会となりました。受講者からのアンケート結果により、「大変有意義な研修であり、ぜひ継続してほしい。現場に戻って来年の参加案内を広げたい。」といったコメントや、全ての受講者から同僚への受講を奨励したいとの回答を得ました。その他にも多数頂戴したさまざまな感想や意見については、次年度以降の研修に活かしてまいります。



高田昌行局長と今村文彦所長によるあいさつ



首藤伸夫先生による特別講演と研修会会場



危機管理コースの講義・演習の様子



都市整備コースの講義・演習の様子



コース合同の講義・演習の様子



受講者による振り返り・丸谷浩明所長補佐による修了証の授与と閉会あいさつ